

脳出血後に視覚性運動失調を来した患者に運転支援を行った1症例

桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部
須田広樹

○抄録

【背景】近年、半盲や半側空間無視といった視覚異常が運転再開の問題となることが指摘されている。今回、脳出血後に視覚性運動失調を認めた患者に運転支援を行い、運転再開が可能となった症例を経験した為報告する。

【経過】右後頭・頭頂葉の脳出血にて発症。転院時は左下肢麻痺、注意障害、左半側空間無視を認めた。入院後のリハビリテーション治療により全身状態の改善を認めたが、視覚性運動失調の存在が確認された。

【問題点】本症例における退院時の視覚的なズレは手指2横指であり、退院時のドライブシミュレーター評価では問題を認めなかった。初回の実車評価では車両感覚の低下を認めた。その後、自宅にて停止車両を用いた自主訓練を行い、2回目の実車評価は車両感覚に問題なく運転再開が可能と判断された。

【結語】本症例では自動車運転の再開という目標の達成に際して、ドライブシミュレーターと停止車両を用いたリハビリテーション訓練が有効であった。